

2004年に北海道で発生した森林昆虫

上田 明良¹⁾・原 秀穂²⁾

(2006. 5. 15 受理)

はじめに

北海道内における2004年の森林昆虫の発生状況を取りまとめたので報告する(表-1, 2)。本報告の情報は、北海道水産林務部森林整備課が収集したデータ、森林総合研究所北海道支所と北海道立林業試験場が行なった調査による。森林総合研究所森林病虫獣害データベース(ホームページアドレス：<http://150.26.105.86/index.htm>, ユーザー名：AllUser, パスワード：alluser)については、残念ながら2004年に北海道から寄せられた情報はなかった。このデータベースはどなたでも閲覧可能であるが、ウェブ上での情報入力には予め個別のユーザー名とパスワードの取得が必

表-1 2004年所管別オオアブラムシ類発生状況

所管	トドマツオオアブラムシ		エゾマツオオアブラムシ	
	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)
国有林	0.00	0.00	16.84	16.84
道有林	0.00	104.64	0.00	384.80
民有林	0.00	0.00	11.35	11.35
合計	0.00	104.64	28.19	412.99

表-2 2004年に発生した森林昆虫(オオアブラムシ類は除く)

昆虫名	加害樹種	発生地(市町村)	発生区域面積(ha)	備考
カラマツヒラタハバチ	カラマツ	北広島市	64.57	
	カラマツ	静内町	0.64	
	カラマツ	浦河町	6.56	
	カラマツ	様似町	9.04	
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	豊浦町	41.90	
	カラマツ	虻田町	68.52	
	カラマツ	社管町	282.65	
	カラマツ	伊達市	223.28	
	カラマツ	白老町	0.60	
	カラマツ	静内町	2.80	
	カラマツ	浦河町	7.84	
ニホンカラマツヒラタハバチ	カラマツ	標茶町	42.00	
	カラマツ	弟子屈町	526.04	
	カラマツ	阿寒町	0.32	
カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	池田町	10.80	2002年台風21号の風倒地
	カラマツ	帯広市	2.55	
	カラマツ	鶴川町	1.52	
シナノキハムグリハバチ	シナノキ	富良野市	100.00	
ブナアオシャチホコ	ブナ	奥尻町	1,796.33	

要なので、事前に当該都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者に連絡されたい。また、従来の専用ハガキでの情報提供も随時受け付けている。ハガキをお持ちでない方は、森林総合研究所および都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者または(財)林業科学技術振興所に連絡をいただきたい。読者からのなるべく多くの情報提供を切望している。本報告に先立ち、発生情報をお寄せ頂いた関係各位にお礼申し上げる。

2004年の発生の特徴

カラマツ食葉性昆虫の総発生面積は1,280haに達したが、2003年の3,730ha、2002年の5,000haより少なく、2001年の23,000haと比べると明確に少なかった(尾崎・原, 2004, 上田ら, 2004, 2005)。種別にみると、2003年に一度終息したハバチ類3種の被害が再発した。逆に、増減はあるものの1998年から毎年みられたカラマツイトヒキハマキの被害がなかった。また、2001年から被害が発生し、2002年に大発生したカラマツツツミノガの被害も終息した。ハバチ類の被害では、胆振・日高地方でのカラマツハラアカハバチ(写真-1)の被害630haと、道東でのニホンカラマツヒラタハバチの被害570haが目立ったが、過去の被害と比べると微々たるものである。しかし、今後被害が増大する可能性がある。ハバチ類3種の被害面積の推移を図-1に示した。道央のカラマツヒラタハバチ(ニホンアカズヒラタハバチを含む)の被害は、1994年に現れ、1995年から4年間大発生した。1999年からは0~22haであったが、2004年は81haと上昇した。また、前回被害がみられなかった日高地方での発生が認められている。大発生となれば、前回よりも広域での被害が危惧される。道南

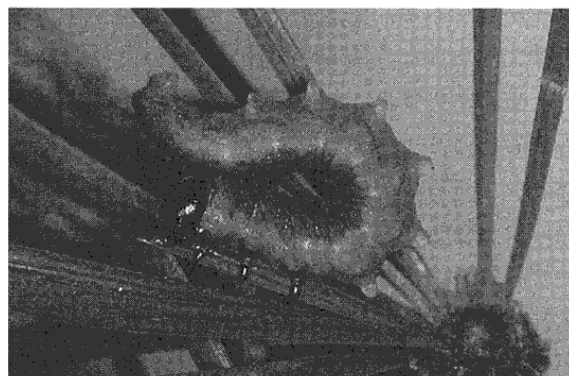
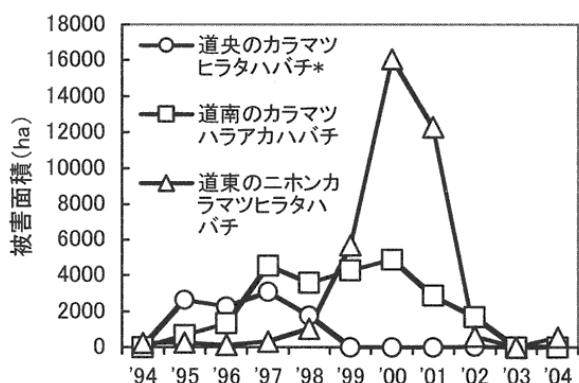
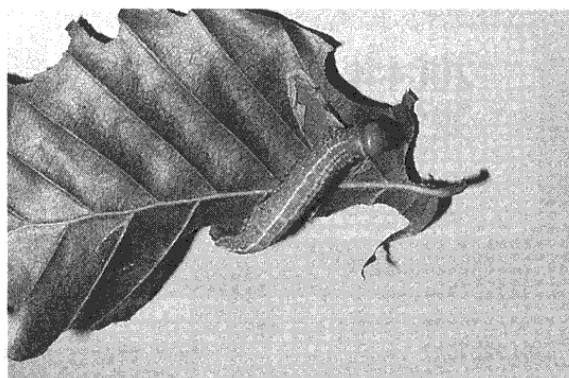


写真-1 カラマツハラアカハバチの幼虫



図一 1994年から2004年における3種のヒラタハバチ被害面積の推移。*道央のカラマツヒラタハバチにはニホンアカズヒラタハバチによる被害を含む。



写真一 2 プナアオシャチホコの幼虫

のカラマツハラアカハバチの被害は、1995年に現れ、1997年から5年間大発生した。本種の被害は1933年に新冠で記録されているが、最初の大発生は胆振・日高地方（苫小牧市，厚真町，むかわ町，安平町）で5年間1600～3300haみられた（伊藤ら，1997）。2004年の被害は同じ胆振・日高地方でも、異なる地域での発生であり、長期の被害が危ぶまれる。道東のニホンカラマツヒラタハバチの被害は、漸進大発生を示したことから、この数年間のうちにまた大発生する可能性がある。このように、これら3種の被害については、今後注意が必要である。

十勝におけるカラマツヤツバキクイムシによる被害は2002年10月の台風21号によりカラマツを中心に大規模な風倒被害が発生した場所で生じた。大規模風倒被害後の本種による被害は、風倒の2～3年後に発生することが知られている（上田，2006）。2003年に被害はなかったが、筆者らは風倒木での繁殖を観察していた（上田ら，2005）。風倒木で発生した成虫が生立木を集中攻撃（マスアタック）し、随伴する青変菌により枯死したと考えられる。このような被害は、普通1～3年でほぼ終息するが、乾燥等により樹勢が低下すると長期化することもあるので注意しなければならない。被害木の伐採と林外搬出がもっとも有効な防除法である。

カラマツ以外では、奥尻町のプナアオシャチホコによる被害が顕著であった。若齢幼虫は黒っぽい、終齢幼虫は全体が黄緑色になる（写真一2）。本種による被害は、これまでも1970～71年に道南と黒松内町で、1979年から82年に道南でみられた。今回の被害は、約20年振りのものであ

る。本種の大発生は、幼虫の発育期（7月）の乾燥と関係があると考えられている（鎌田，2005）。漸進大発生をすることから、今後注意が必要である。大発生は、様々な天敵（捕食者，捕食寄生者，病原微生物）の作用と樹木葉成分の変化によって幼虫の死亡率が高くなることで収束する（鎌田，2005）。なかでも冬虫夏草の1種であるサナギタケの作用が大きいと考えられている（鎌田，2005）。

このほか、シナノキハムグリハバチの被害が富良野市でみられたが、前年（2003年）と比べると大きく減少した。本種は長期休眠によって大発生を3年周期で繰り返すことから（井口，2006）、次回の大発生は2006年と予想される。

（¹森林総合研究所北海道支所・²北海道立林業試験場）

引用文献

- 井口和信・尾崎研一（2006）長期休眠によるシナノキハムグリハバチ3年周期の大発生。日森林北海道支論，54：121-123。
- 伊藤賢介・福山研二・東浦康友・原秀穂（1997）1996年に北海道で発生した森林害虫。北方林業，49：224-227。
- 尾崎研一・原秀穂（2004）2001年に北海道で発生した森林害虫。北方林業，56：34-36。
- 鎌田直人（2005）昆虫たちの森。東海大学出版会，秦野，329 pp。
- 上田明良（2006）大規模風倒後のヤツバキクイムシ類による生立木被害とその予防法—2004年18号台風とこれまでの台風の比較—。日森林北海道支論，54：156-159。
- 上田明良・尾崎研一・原秀穂・石濱宣夫（2004）2002年に北海道で発生した森林害虫。北方林業，56：85-86。
- 上田明良・尾崎研一・原秀穂・石濱宣夫（2005）2003年に北海道で発生した森林害虫。北方林業，57：64-65。